

有明ニュース



癌研有明病院

The Cancer Institute Hospital of JFCR



平成 22 年 9 月号 No.8

〒135-8550 東京都江東区有明 3-8-31

TEL 03-3520-0111(代表)

(URL): <http://www.jfcr.or.jp>

内視鏡による診断・治療について

内視鏡治療部部長 五十嵐 正広

癌研有明病院内視鏡診療部を紹介させていただきます。現在、内視鏡検査は消化器疾患の診断や治療になくてはならないツールとなっています。2005年3月大塚から有明の地に移転し内視鏡室も新しくなり、毎年検査件数が増え 2009 年度は表 1 に示すように総数で 18,997 件施行しています。その内訳は、上部消化管が 10,781 件、下部消化管が 7,197 件、その他 1,019 件。また、消化管の癌の治療も年々増加し 2009 年度は食道癌：119 例、胃癌 343 例。大腸では外来でのポリペクトミーや EMR は 1,972 例、入院による治療は 368 例、その中で早期癌は、M 癌：180 例、SM 癌：30 例となっています。

<最近の内視鏡診断と治療のトピックス>

食道癌の診断にはルゴール撒布が以前より使われていますが、当院では、移転当時より Narrow band imaging(NBI)を導入し食道癌のみならず咽頭・喉頭領域の dysplasia や早期癌の診断に用いており、2009 年には、早期発見が困難とされる中・下咽頭癌 10 例ほどを発見し、内視鏡的治療(ESD)を行っています。この領域の癌が早期発見できれば患者の QOL に大きく貢献できる分野であり頭頸科との共同研究を進めております。

胃癌の診断には、色素内視鏡のほか NBI や拡大内視鏡、超音波内視鏡を用いた癌の発見、範囲診断、深達度診断を行っています。紹介例のみならず当院で発見した 5mm 以下の微小癌の数も累積で 120 例を超えており診断能の高さを自負しております。内視鏡的治療は ESD を標準的な治療法とし、最近では外科との共同研究で粘膜下腫瘍等に対して ESD と腹腔鏡下手術を組み合わせた Laparoscopy Endoscopy Cooperative Surgery(LECS)の手技を開発し QOL の向上を図っています。

大腸癌の診断では、拡大内視鏡をルーチン機とし、全検査室で



NBI+拡大観察、色素撒布+拡大観察を行っています。内視鏡的治療は EMR と ESD の適応を十分検討して選択していますが、当院では腹腔鏡下手術の技術レベルも高いので3者の選択肢を外科とのカンファランスで検討して決定しています。また、当院では直腸カルチノイドの内視鏡的治療例が 220 例を超えており、詳細なデータを基に治療方針の確立に向けた検討を行っています。

癌の専門病院として最新の診断・治療設備を整え技術レベルの向上に精進し社会的なニーズにこたえられるよう日々努力しております。

表 1 2009 年度癌研有明病院内視鏡検査・治療実績

上部消化管	10,781
内視鏡治療した食道癌	119
内視鏡治療した胃・十二指腸癌	343
下部消化管	7,197
外来治療例	1,972
入院治療	368
(内視鏡治療した早期大腸癌	210)
その他（超音波内視鏡など）	1,019

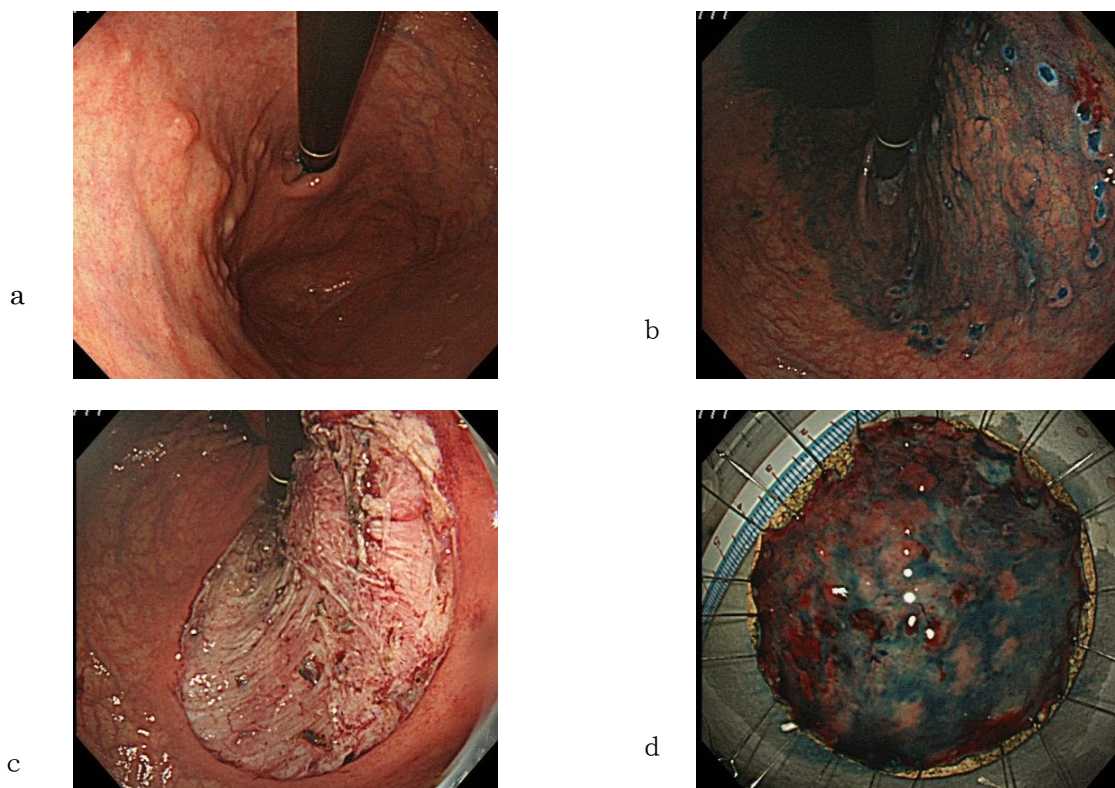
上部消化管チームの取り組み

消化器内科 上部消化管担当部長 藤崎 順子

消化器内科 上部消化管チームは食道 胃の早期胃癌内視鏡治療を中心に診療を行っています。現在スタッフ 5 人 レジデント 6 人 11 人で構成されています。内視鏡室が増設されたこともあり、以前に比べ入院待ち、検査待ち状況が緩和されました。

上部消化管チームは週 1 回月曜日に外科とカンファランスを行い、症例の検討を行い、治療方針を決定し、個人で治療方針を決定することはありません。早期胃癌の内視鏡治療はまだ、絶対適応病変と適応拡大病変があり、適応拡大病変については全国レベルでは内視鏡治療を施行していない病院もあります。当院ではそのような症例についてはカンファランスで十分議論し、適応をきめています。適応拡大病変の症例を提示いたします（図 a,b,c,d）。この症例は悪性リンパ腫で治療中でしたが大きな胃癌が発見されましたが、粘膜内癌であったため内視鏡的に切除可能でした。また食道がんにおいては毎週木曜日にカンファランスを行い、内視鏡治療、手術、化学療法 of 適応をきめています。切除後の病理については隔週で病理とカンファランスを開催し、術前診断の精度向上と術後の治療方針について検討しています。それぞれのカンファランスで結論がでない症例については毎週木曜日の cancer board に提示し、消化器全体で治療方針をきめています。消化器内科では常に各科と連絡を取り合い、治療がスムーズに行われています。とくに従来腹腔鏡下で切除されていた粘膜下腫瘍に対して、外科と協力することで、非常に小さい範囲、すなわち、切除サイズは腫瘍そのものに限局し、余分な切除面がないため切除後の変形も少なく、また従来難しかった、噴門直下の病変も切除可能となりました。

以前は入院待ちが2か月という最悪の状態でしたが、最近ではベッド数の増加と内視鏡室増設により、入院待ちは最高でも1か月と短縮されました。今後も近隣の先生方の需要、また遠方から来院されるかたの便宜を考えながら、診断と治療に力を入れていきたいと考えております。



消化器内科肝胆膵グループについて

消化器内科副部長 石井 浩

消化器内科（肝胆膵）は、今まで伝統的に肝癌に対する IVR 治療を診療の主軸にしてきましたが、2007 年に筆者が国立がんセンターから赴任してからは、肝胆膵癌標準化学療法の適正運用のほか、新規薬剤・レジメンの有効性、有用性を明らかにする臨床試験に積極的に取り組むようになり、年々参加するプロジェクトが増えてきました。2010 年には5つのプロジェクトで患者募集が終了、7つのプロジェクトが現在進行中であり、6つのプロジェクトが今年度内開始の予定です。その内容は分子標的薬から免疫療法まで多岐にわたり、ご紹介いただいた患者様には標準治療以外の様々なオプションが提示できると思います。現在進行中のプロジェクト抜粋

- 進行胆道癌に対する OTS102（ペプチドワクチン）とゲムシタビンの併用療法。
- 進行肝細胞癌に対する新規分子標的薬 linifanib。
- 進行膵癌に対するトシリズマブ（モノクロナル抗体）とゲムシタビンの併用療法。

消化器内科スタッフ



星野 恵津夫
(部長)



五十嵐 正広
(下部消化管
担当部長)



亀井 明
(肝胆膵
担当部長)



藤崎 順子
(上部消化管
担当部長)



石井 浩
(ペプチドワクチン療法
担当副部長)



土田 知宏
(医長
兼 健診センター副
所長)



高野 浩一
(医長)



山本 頼正
(医長)



千野 晶子
(医員)



平澤 俊明
(医員)



行澤 斉悟
(医員)



藤田 力也
(顧問)

その他スタッフ

倉岡賢輔、石山晃世志、窪田 学、春日章良、林 裕子、大前雅実、
加藤 薫、今井瑞香、菅沼孝紀、竹越 淳、西田久実、松山真人

癌研有明病院での取り組み紹介

当院では地域のご紹介いただいた医療機関さまを含め多くの医療機関へ当院での取り組みを知っていただきたく医療セミナーを開催しております。下記にその内容を紹介いたしますが、今後も皆様にとって共に歩んでいける医療機関を目指し努力してまいります。

◆消化器セミナー（9月開催）

「生検組織が過形成で、H. pylori 除菌で縮小傾向を認めたため、診断的ESDを施行した胃SM癌の1例」：消化器センター 松尾康正医師

「ここまで見える！下咽頭がん」：消化器センター 石山晃世志医師

「未分化型早期胃癌の診断、治療の最前線～H. pylori 感染との関連も含めて～」
：消化器センター 平澤俊明医師

「あなどるなかれ、検便検査」：消化器センター 千野晶子医師

◆婦人科セミナー（10月開催予定）

「0期子宮頸がんの取り扱い」：婦人科 尾松公平医師

「MPA療法とその限界」：婦人科 紀 美和医師

「子宮頸がん根治手術の種類と後遺症軽減」：婦人科 宇津木久仁子医師

「術前化学療法の有用性；bulky IB+IIa」：婦人科 松村真紀医師

「卵巣がん検診は有効か；卵巣がんのうち2次的発症と考えられるものとde novo 発がん；当院の成績を踏まえて」：婦人科 岩瀬春子医師

■医療機関向け お知らせ ■

先生方へご案内

医療連携室では、医療機関の先生方からご紹介患者様の診察(セカンドオピニオン)予約の予約調整を行っております。また、経過報告書の管理、診察に関するご案内等を行っております。お問い合わせの窓口としてご信頼いただけますように、迅速・確実な対応を心がけて行きます。ご紹介方法は、電話・FAXでお申込みいただけます。(また、患者様自身にお電話いただき予約することもできます。)

電話：03-3570-0506(医療機関様用)

03-3570-0541(患者様用)

FAX：03-3570-0254

手術待ち期間の短縮について

当院では、ご紹介をいただきました患者さんに関しまして、一日も早く手術を受けていただけるように、手術室を1室増設いたしました。

おかげさまで、順調に稼働いたしております。

呼吸器外科、消化器外科、婦人科を中心に、年間およそ500件の手術を新たに行うことが可能となり、新設の手術室では、消化器外科の腹腔鏡、呼吸器外科では胸腔鏡を使った手術や婦人科手術が行われており、特に消化器外科、婦人科は短い時間でできるようになりました。

迅速に、手術のご依頼にお応えできる環境が整ったことをお知らせさせていただくとともに、是非患者さんのご紹介を賜りますよう、お願い申し上げます。

連携医療施設の登録のご案内

当院との医療連携が密接な医療機関に、「連携施設」となっております。連携施設にご登録いただけます先生方は、医療連携室へ電話もしくはメールにてお問い合わせください。よろしくお願いいたします。当院は、地域医療機関と協力して地域医療の推進に努めます。

連携施設 279 施設 (2010年8月31日現在)

財団法人 癌研究会有明病院 発行：医療連携室

TEL 03-3570-0506 FAX 03-3570-0254

(E-mail): renkei@jfc.or.jp